

食への関心を高める農園活動 ～定山溪ファームでの農業体験～

目 標

- ・学校園での栽培活動や農園での果物の収穫を通して、食料生産に携わる人々の苦労や工夫を体験的に学ぶ。
- ・地元果樹園での活動を通して、地域のよさを知る。

育てたい力

- 体験活動を通し、人々の工夫や苦労について気付いたり感じたりする力を養う。
- 栽培した作物を収穫したり、実際に食べたりして食を大切にする態度を育てる。
- 学校園や地元農家での体験活動を通して、定山溪の自然が農作物栽培に適した環境であることなど、地域のよさに気付く。

主な学習活動（総合的な学習の時間・生活科：10時間）

全校ジャガイモ  
植え  
(5月)

- ・全校縦割り活動の一環として、グループ毎にジャガイモを植えた。農体験リーダーから、植える間隔や肥料についての指導を受け、グループ毎に植え付けた。



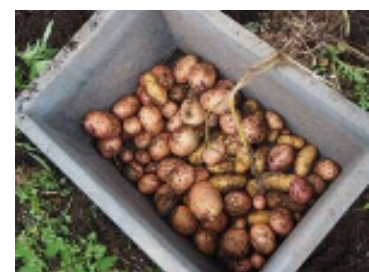
学校農園での  
学級毎の活動  
(5～7月)

- ・各学年で決めた作物を、学年園で栽培し、継続的に草取りや水やりなどの世話や観察活動を行った。



定山溪ファーム  
での農業体験  
(7月)

- ・定山溪ファームで、イチゴのランナーをカットして、そのランナーをポットに植え替える体験を行った。担当者から、イチゴの育成について説明を聞き、ランナーから実が育つことを教わった。イチゴの収穫の後、植え替えたポットをいただき、学校の畑で育てることにした。



学校農園での  
収穫活動  
(8～9月)

- ・縦割りグループで育ててきたジャガイモや各学年園で育てた作物の収穫を行った。収穫の喜びを味わうと共に、野菜を育てる苦労や、植え方によって収穫量に違いがあることを実感した。

取組を終えて

子どもの声（感想）

- ・ランナーを切ることで、イチゴがさらに成長することが分かった。
- ・イチゴのランナーから、実が育つことが分かった。
- ・気温によって、サクランボの実の育ちが変わることが分かった。
- ・他の果物も収穫してみたいという気持ちになった。

取組の成果

- ・栽培活動や収穫活動を通し、食料生産に取り組む人々の苦労や工夫を知ることができた。作物一つが出来上がるまでに、多くの努力が必要であることを知り、「食べもの」の大切さを感じることができた。
- ・地元の果樹園での体験学習を通して、定山溪が農作物に適した環境であることに気付き、地域のよさを実感する機会になった。

体験先、関係機関

定山溪ファーム（札幌市）